

7月の園だより

【地域版】

令和8年7月

富田林市立青葉丘幼稚園



先日は台風の接近に伴う臨時休園にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。季節は本格的な夏へと移り変わり、子どもたちが楽しみにしている夏ならではの活動が始まります。暑さや熱中症対策を十分に行いながら、元気いっぱい過ごしていきたいと思います。

6月、幼稚園のイチゴも収穫の時期を終えようとしていた頃、「もうイチゴ終わりや…」と寂しそうにつぶやく4歳児。「また来年、たくさんイチゴを食べるにはどうすればいいかな？」という担任の問いかけに、「種を植えればいいのか」と答える子どもたち。フウセンカズラの種をまいた経験から『種をまけば育つ』と考えたようです。

「イチゴの種はどこにあるの?」と、さっそく図鑑絵本で調べてみると、イチゴの表面にあるつぶつぶ一つ一つが種であることを知りました。そこで、最後に収穫した一粒のイチゴから種を取り、植えてみることにしました。イチゴを薄く切って乾かし、指で優しくこすって小さな種を集めました。「こんな小さな種から本当にイチゴができるの?」と半信半疑だった子どもたちでしたが、先日、その種から小さな芽が出ていることに気付き、「イチゴが出てきた!」と大喜びしました。ところが、虫めがねで双葉を観察していた子どもが「葉っぱがギザギザしていない! 葉っぱの形が違う」と、イチゴの葉の形ではないことに気付きました。本当にこれはイチゴの芽なのか…「これからギザギザの葉っぱが出てくるんじゃない?」と、毎日様子を見ながら生長を楽しみにしています。

また、その図鑑絵本にはランナーからも苗を育てることができるとかかれていました。「おじいちゃんがイチゴを育てているから聞いてくる!」という子どもの一言をきっかけに、実際におじいちゃんが幼稚園へ来て、子どもたちに育て方を教えてくださいました。ランナーの先にできた苗を一つずつプランターに植え、「ランナーは10月頃に切り離すといいよ」という話を聞くと、「10月って、だんじりの時ぐらい?」と、自分たちの生活と結びつけながら理解しようとする姿も見られました。

図鑑絵本で調べたり、実際に育てている方の話を聞いたり、観察を重ねたりする中で、子どもたちの「どうして?」「やってみたい!」という気持ちはますます膨らんでいます。子どもたちの「なぜだろう?」「どうして?」というつぶやきには学びの種がたくさん詰まっています。大人がすぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり調べたりしながら一人一人の『探究の芽』を大切に育てていきたいと思っています。

今月も教育活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

園長 横大路 久美

—育てたいこと—

- 3歳児
 - ・教師や友達と一緒に夏の遊びを楽しむ。
 - ・夏の生活や支度の仕方を知り、できるところは自分でしようとする。
- 4歳児
 - ・先生や友達と一緒に水に親しんだり、夏の遊びを楽しんだりする。
 - ・身近な自然に興味をもち、観察したり収穫したりすることを楽しむ。
- 5歳児
 - ・身近な自然に親しみ、夏ならではの遊びを友達と存分に楽しむ。
 - ・友達と想いを伝え合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。

